大徳寺周辺エリア
～船岡山・今宮神社・大徳寺道～

視点場（境内）　特に着目する通り
視点場（参道等）（白線）　エリアの主な通り

エリア概要

- 船岡山は、平安建都に際しての座標となったといわれる独立丘であり、大徳寺は、その北側平地に開かれた２０余の塔頭を擁する大寺院である。近代初頭までは、大徳寺境内地を挟む形で、東側に大徳寺道、西側に長坂越丹波街道が走り、その沿道に見られる集落を除けば山すそまで農地が広がっていたが、近代以降、東・南側からの市街化が進んだ。また、南の今宮門前通は、幅員も広く、両側の松並木が風情を醸しだしている。
- 船岡山の樹林とともに、大徳寺及び今宮神社の境内地、紫野高校には豊かな緑が保全されている。
- 大徳寺及び今宮神社の境内地の濃い緑の保全と共に、大徳寺道の伝統的町家の家並み、今宮神社の東側門前で向かい合う名物のあぶり餅屋や南側門前の大徳寺などの豊かな緑が織りなす門前景観の維持が重要である。
- 船岡山については、樹木の保全に重点を置くとともに、周辺の住宅地の美しい自然石積擁壁や敷地内緑化などの自然的要素の保全を図るものとする。

大徳寺

大徳寺は、14世紀初頭に大燈国師を開山として開かれた小院であった。正中2年(1325)に花園上皇･後醍醐天皇の祈願所となったのを契機に寄進が増えるが、室町幕府下では衰退し、応仁の乱で焼失する。それを一休宗純が境の商号の援助を得て復興させた。[1)]

大徳寺は広大な敷地が塀や樹木で覆われ、多くの塔頭により、特徴的な景観がみられる。

大徳寺総門付近から
南側を見る

大徳寺総門付近から東側を見る

大徳寺に通じる東西の道

旧大宮通（大徳寺道）周辺

近世、生活集落は、大宮通の北への延長線上に、かなり早くから大規模に形成されていたようである。[3)]

現在も、町家の家並みと大徳寺境内の濃い緑が連なる景観が見られる。

旧大宮道（大徳寺道）

船岡山

平安期には景勝･遊行の地となり、「枕草子」にも丘の一番にあげられている。山上には明治13年に織田信長を祀る建勲神社が創建され、公園となり、国の史跡に指定された。[2)]

樹木が保全され、周辺の住宅地の美しい自然石積擁壁や敷地内緑化などの自然的要素の保全を図られている。

今宮神社参道から
船岡山を望む

今宮神社参道

大徳寺及び今宮神社の境内地の濃い緑と沿道の樹木、今宮神社が一体的な景観を形成している。

今宮神社参道

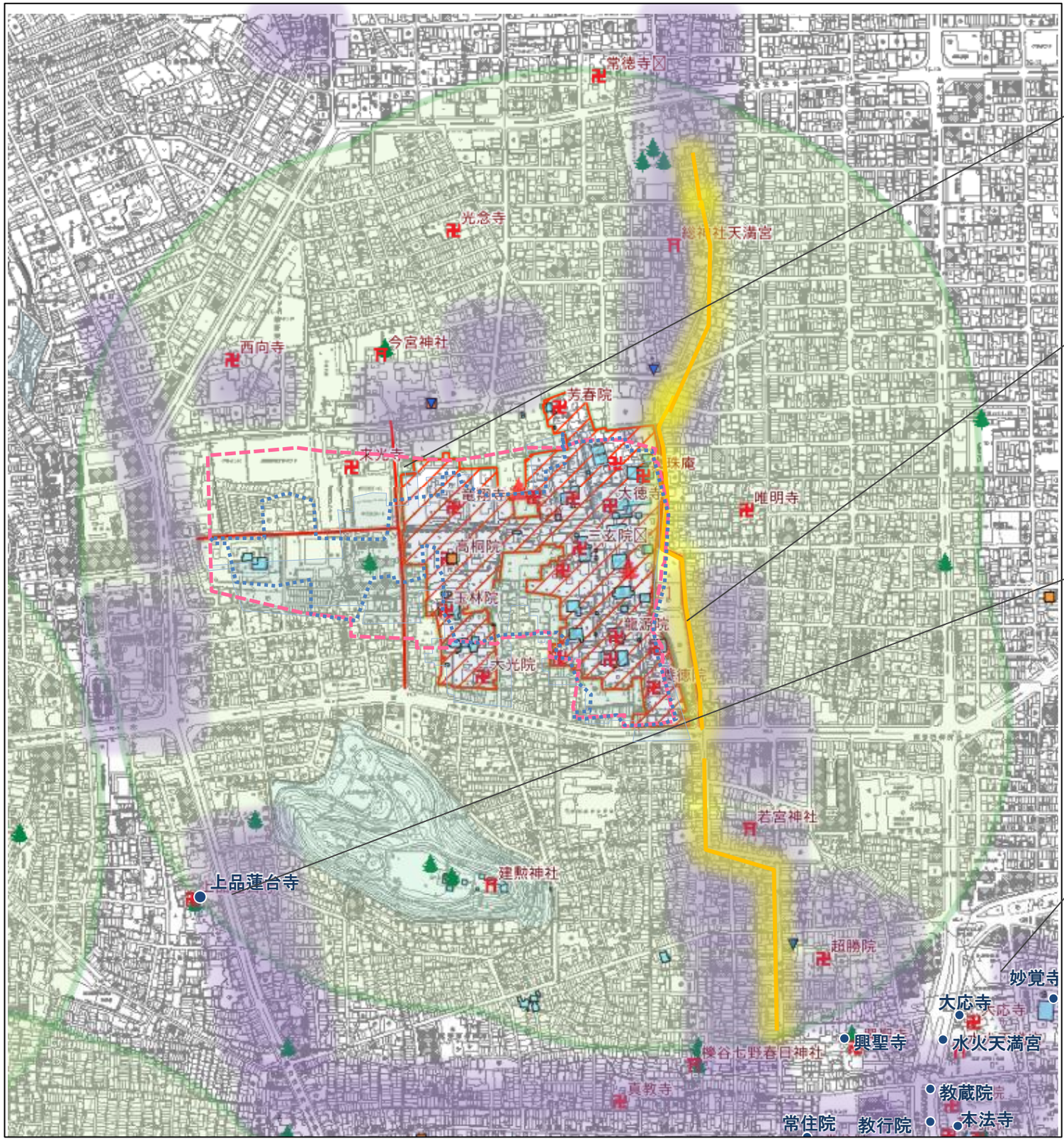
今宮神社・今宮神社御旅所

平安時代の長保3年(1001)の疫病流行に際して、船岡山北辺に社殿が造営され、御霊会が行われたのを創始とする。疫病がおこるたびに信仰し、つねに奉幣や神馬寄進が行われ、「やすらい」祭は発展をみせ、現在まで継承されている。[4)]

御旅所は、毎年5月5日から13日までの今宮祭の舞台として知られる。[5)]

(左)今宮神社楼門
(右)今宮神社御旅所

エリアの概要



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

今宮通

明治２年の絵図には南北の参道は描かれず、古くは今宮通が参道であった。それもあってか、今宮通には、町家が並ぶところもある。

今宮通の京町家等

旧大宮通（大徳寺道）

この地域一帯は大宮郷とよばれ、近世は紫竹・大門・上野・雲林院・門前のいわゆる大徳寺境内五か村と、その他合計十か村からなっていた。生活集落は、大宮通の北への延長線上に、かなり早くから大規模に形成されていたようである。[6]　現在も、町家の家並みと大徳寺境内の濃い緑が連なる景観が見られる。

旧大宮道

上品蓮台寺周辺

上品蓮台寺は応仁の戦火で焼失したが、文禄年中（１５９２－９６）豊臣秀吉の帰依を得、境内に子院が１２ヵ所でき、京都五三昧の一つとして栄えた。その後子院もさらに増え、総門（千本通鞍馬口）の東型北へ地蔵院、大慈院、安楽院など多くの子院があったが、多くは統廃合され、現在は真言院・大慈院は存する。[7]

上品蓮台寺

小川地区

応仁の乱により戦火となったこの地から、数々の寺社が移転していき、その跡地に寺院が建立された。また、豊臣秀吉が千家再興を許し、土地を与えたことにより、現在まで続く不審庵（表千家）、今日庵（裏千家）となった。[8)9)]

小川通

妙顕寺

本法寺

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域
- 特に着目する通り
- 明治25年以前から存在する市街地
- 界わい景観整備地区

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等 ※

樹木

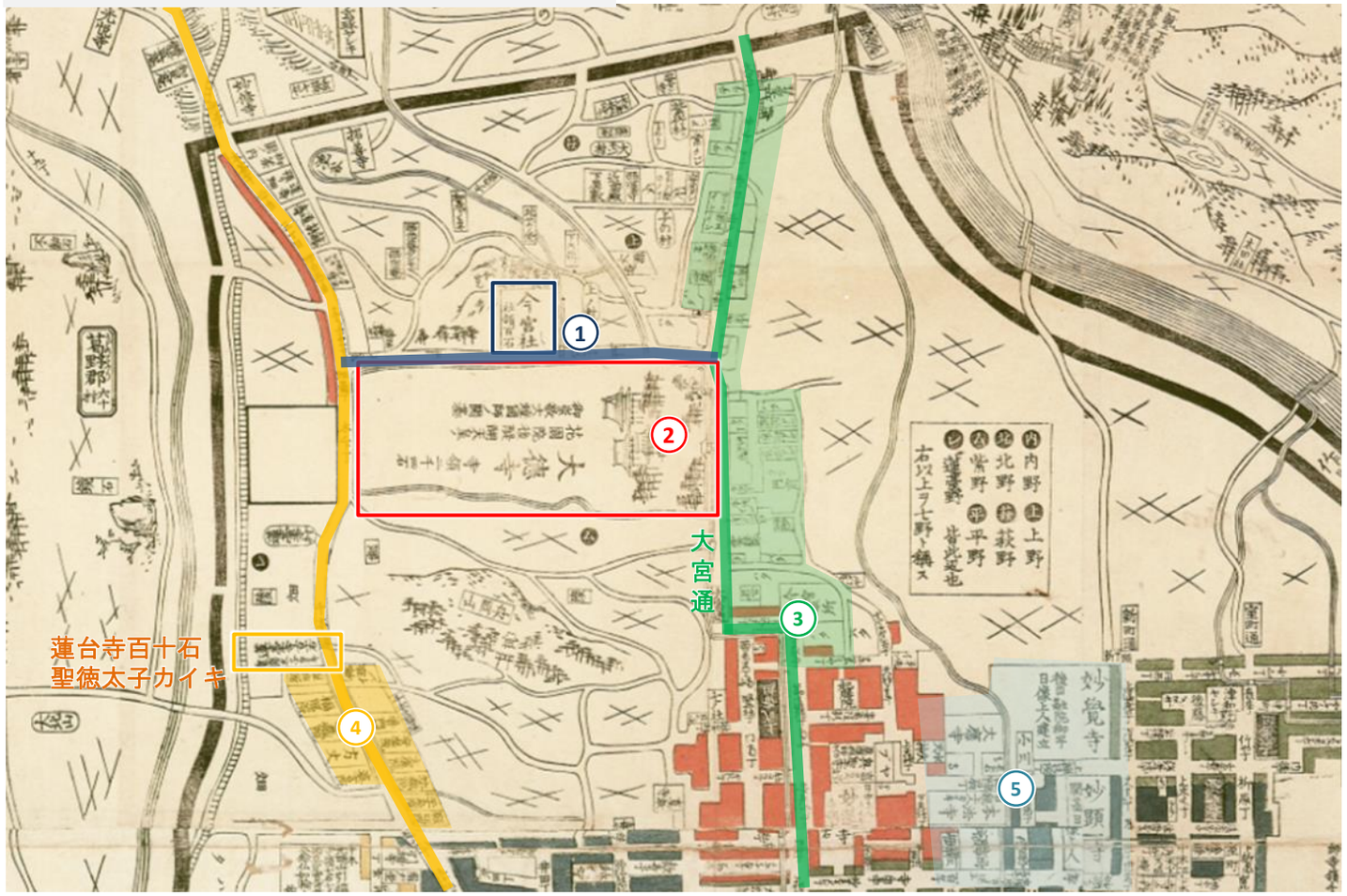
- 天然記念物
- 保存樹
- ・区民の誇りの木

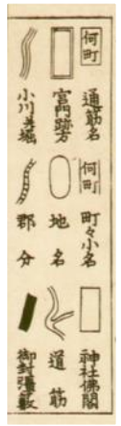
- 明治16-18年時点の境外
- 明治16-18年時点の境内

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の　1、000m2以上の社寺データ

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年（1869年）（上地政策による境内地減少前）





京町御絵図（明治2年）

①今宮神社

平安時代の長保３年（１００１）の疫病流行に際して、船岡山北辺に社殿が造営され、御霊会が行われたのを創始とする。中世前期に、朝廷が勅使を立てて、疫神退散のために、賀茂・柴野の民衆を今宮の疫神社の奉仕集団として組織し、「やすらい」祭を成立させ、民衆の側もしばしば自分たちを悩ます疫病に対する民族と合致させた。疫病がおこるたびに信仰し、つねに奉幣や神馬寄進が行われた。この結果、風流の芸能であった「やすらい」は発展をみせ、現在まで継承されている。[10)]

今宮神社への参道は、現在の今宮通であったということが分かる。

②大徳寺

大徳寺は、１４世紀初頭に大燈国師を開山として開かれた小院であった。正中２年（１３２５）に花園上皇・後醍醐天皇の祈願所となったのを契機に寄進が増えるが、室町幕府下では衰退し、応仁の乱で焼失する。それを一休宗純が境の商号の援助を得て復興させる。この頃から大徳寺は堺商人と関係を深め、茶の湯文化とも関係をもつようになる。[11)]

大徳寺への参道は、大宮通と千本通からであったことが分かる。

③大徳寺周辺

この地域一帯は大宮郷とよばれ、近世は紫竹・大門・上野・雲林院・門前のいわゆる大徳寺境内五か村と、その他合計十か村からなっていた。生活集落は、大宮通の北への延長線上に、かなり早くから大規模に形成されていたようである。それでも江戸期には、大宮郷はまだまだ田園的景観にあった。[12)]

④千本通鞍馬口周辺

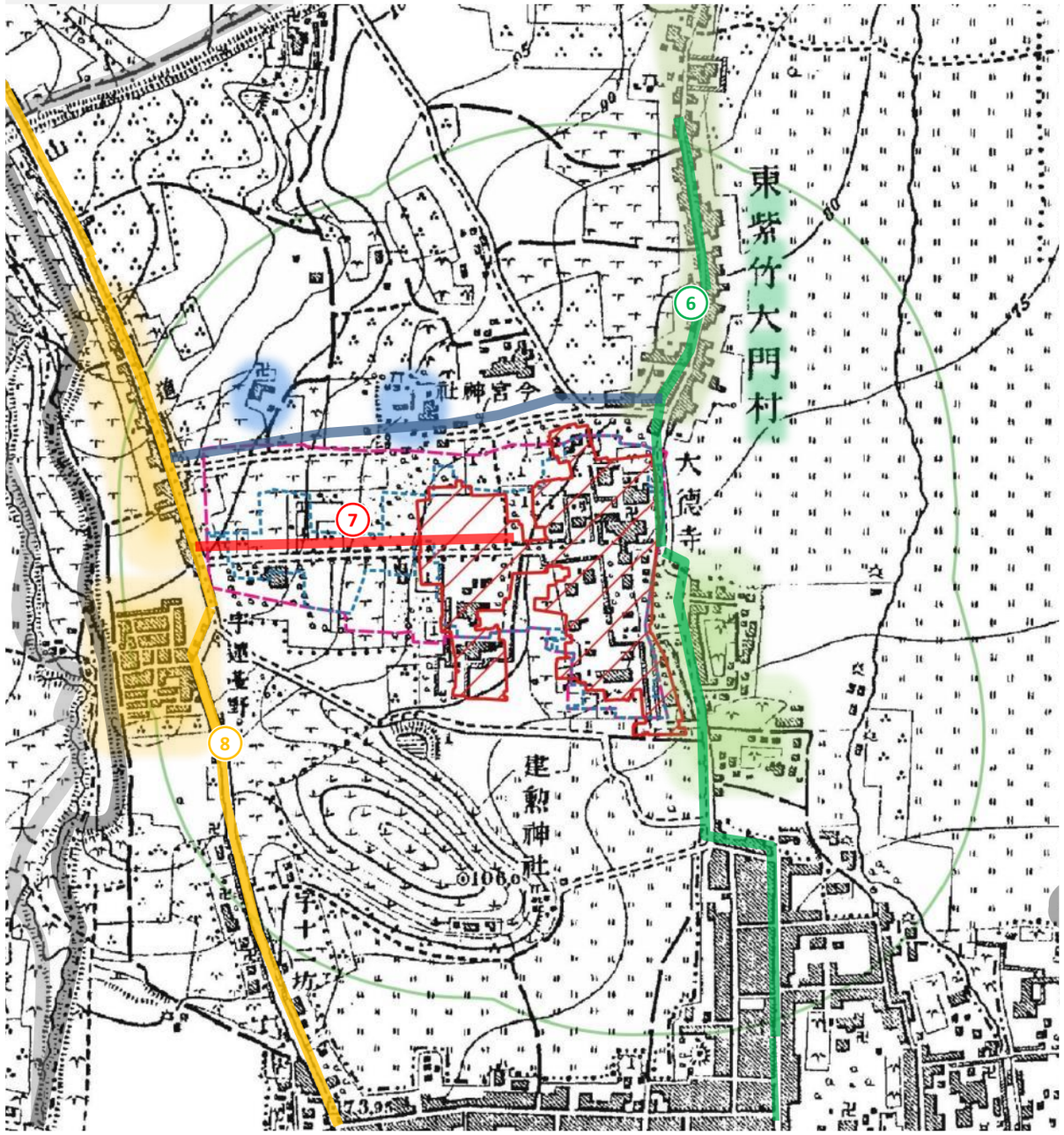
「蓮台寺百十石　聖徳太子カイキ」と記載がある。上品蓮台寺は応仁の戦火で焼失したが、文禄年中（１５９２－９６）豊臣秀吉の帰依を得、境内に子院が１２ヵ所でき、京都五三味の一つとして栄えた。その後子院もさらに増え、総門（千本通鞍馬口）の東型北へ地蔵院、大慈院、安楽院など多くの子院があったが、多くは統廃合され、現在は真言院・大慈院は存する。[13)]

⑤小川地区

天正８年（１５９０）、都市改造によって登場した新道が小川通である。応仁の乱により戦火となったこの地から、数々の寺社が移転していき、その跡地に寺院が建立された。また、豊臣秀吉が千家再興を許し、土地を与えたことにより、現在まで続く不審庵（表千家）、今日庵（裏千家）となった。[14) 15)]

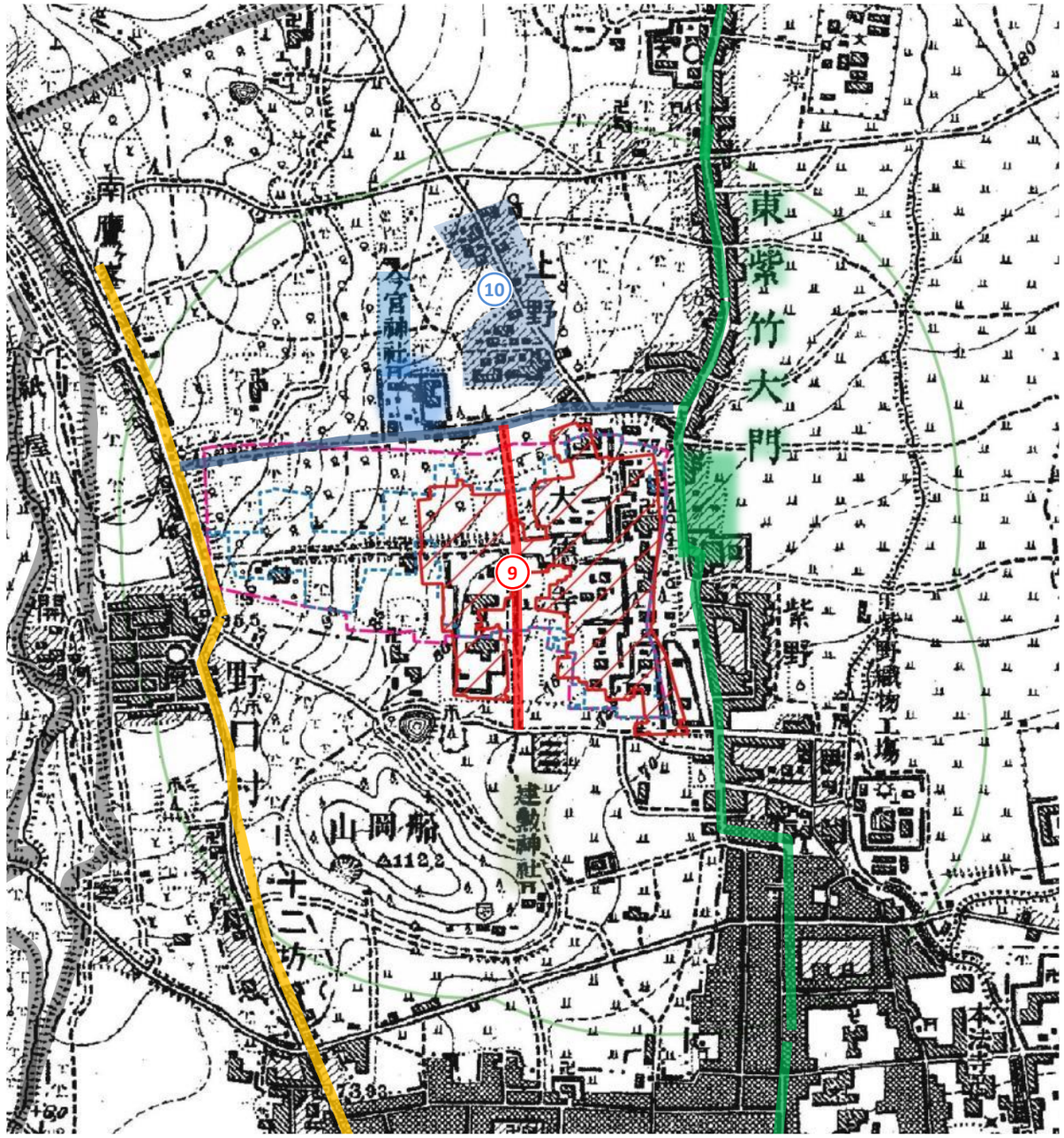
エリアの土地利用の変遷（2）

明治25年(1892年)



資料：仮製地形図(明治中期)
（国土地理院所蔵）
画像：立命館大学アート･リサーチセンター

大正元年(1912年)



資料：正式地形図(大正元年)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート･リサーチセンター

明治16－18年時点の境外地
明治16－18年時点の境内地
近景デザイン保全区域
視点場（境内）
特に着目する通り

⑥東紫竹大門村

明治３年から４年にかけて、京都市中から東紫竹大門村への移住者が急増するが、移住者は大宮御所の関係者や公家の家司が多い。これは明治２年の皇居の東京移住で解体がすすんだ京都朝廷と公家社会の変動を伝えるできごとなのであろう。[16)]

⑦大徳寺

千本通から大徳寺境内へつながる東西の道が開通していることが分かる。

⑧千本通

⑨大徳寺

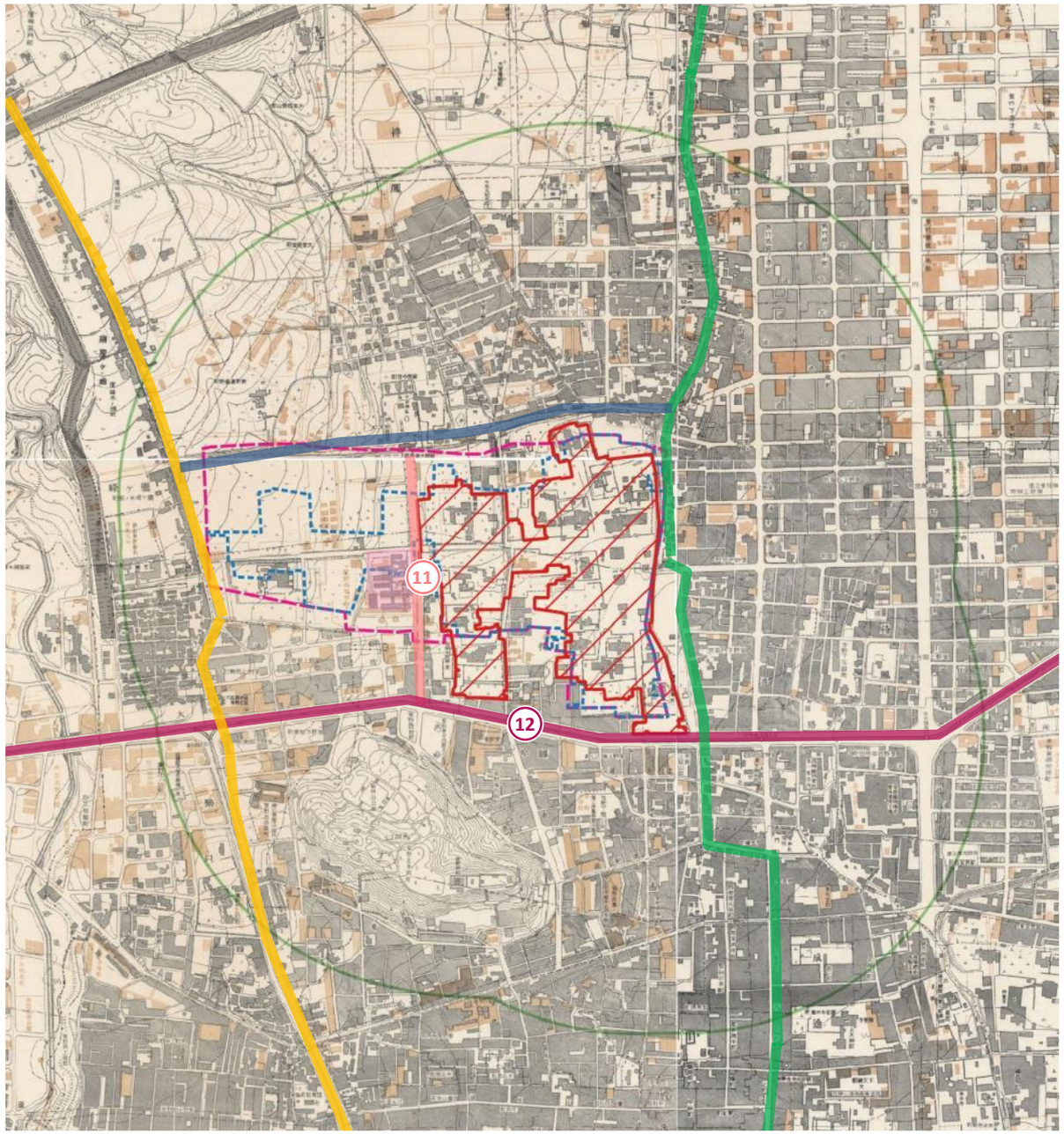
境内を南北に貫通する通りが開通していることが分かる。

⑩今宮神社周辺

上野という地域で市街化が進んでいることが分かる。

エリアの土地利用の変遷（3）

昭和28年(1953年)



資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)
（京都市都市計画局（京都市指令都企計第90号））
画像：立命館大学アート･リサーチセンター

⑪今宮通

現在の今宮神社へ向う南北の道が開通し、京都市立紫野高等学校が開校している。

⑫北大路通

北大路通が開通し、周辺の市街化は一気に進んだことが分かる。

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3、000)を参考にし、作成したものです。

大徳寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(1)

大徳寺

船岡山の北にある臨済宗大徳寺派の大本山。正式には大本山大徳寺という。龍宝山と号し、本尊釈迦如来。

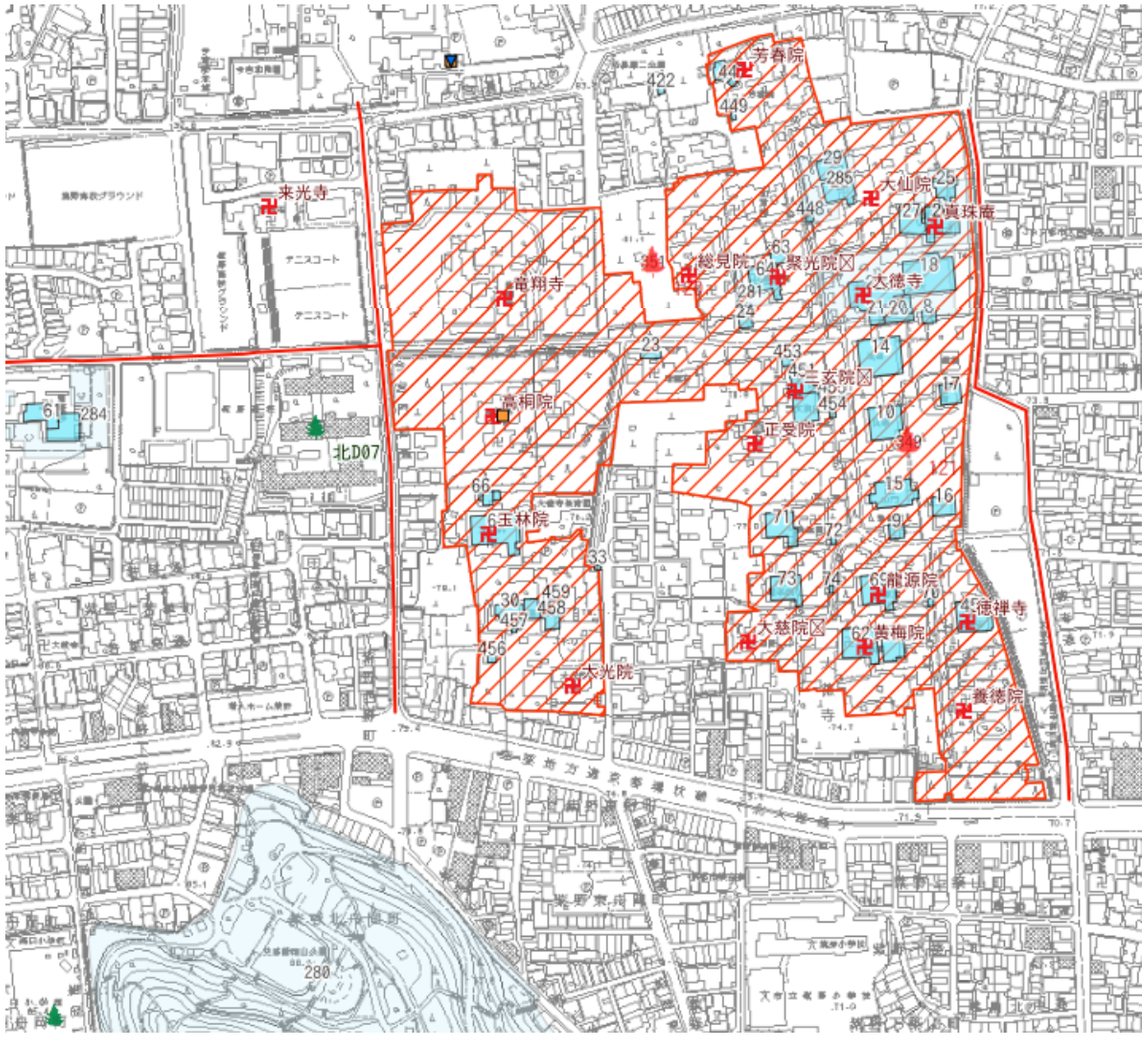
室町時代の中頃以降、当寺には一休宗純の真珠派、陽峰宗韶の竜泉派、東渓宗牧の龍源派（南派）、古岳宗亘の大仙派（北派）の四派が形成された。また村田珠光の一休参禅を契機に、点茶法を行う者は大徳寺派下に参禅するのが慣例となり、堺や博多（現福岡市博多区）の茶人の参禅が相次ぎ、また多くの塔頭に茶室や茶庭が設けられたことから、大徳寺の「茶づら」と称されるようにもなった。

（塔頭）

江戸時代末には別山1・塔頭24・准塔頭57を数えたが、明治維新後寺領は上知となり、塔頭も廃寺や合併などが行われ、現在は龍翔寺・徳禅寺・真珠庵・聚光院・大仙院・高桐院・総見院・黄梅院・三玄院・芳春院・玉林院・龍光院・孤蓬庵・龍源院・養徳院・興臨院（本堂・表門と所蔵の椿尾長鳥模様堆朱盆は国指定重要文化財、京都博物館寄託）・正受院（所蔵の紙本墨書金剛般若経は国指定重要文化財、京都国立博物館寄託）・瑞峰院（本堂・表門は国指定重要文化財）・大慈院・竜泉庵・大光院・来光寺・如意庵の23塔頭がある。[17)]

■ 文化財

国宝	唐門	8	大仙院本堂	28	龍光院書院	32
国指定重要文化財	勅使門	9	仏殿	10	法堂	14
	山門	15	浴室	16	経蔵	17
	方丈及び玄関	18 19	廊下	20	寝堂	21
	庫裏	22	侍真寮	23	鐘楼	24
	眞珠庵通仙院	25	眞珠庵本堂	26	眞珠庵庫裏	27
	大仙院書院	29	龍光院昭堂	30	龍光院盤桓廊	31
	龍光院兜門	33	黄梅院本堂	62	聚光院茶室	63
	聚光院本堂	64	玉林院南明庵	65	玉林院蓑庵	66
	玉林院霞床席	67	玉林院本堂	68	龍源院本堂	69
	龍源院表門	70	興臨院本堂	71	興臨院表門	72
	瑞峯院本堂	73	瑞峯院表門	74	黄梅院庫裏	78
	龍光院黒田家霊屋	457	龍光院禹門	458	龍光院寮及び小庫裏	459
	龍光院附築地塀	460				
府指定文化財	芳春院霊屋（芳春院）	423	芳春院霊（瑞龍院）	424		
	芳春院昭堂（呑湖閣）	447	芳春院打月橋	448	芳春院表門	449
	芳春院墓参門	450	徳禅寺客殿	451	三玄院本堂	452
府指定文化財	三玄院庫裏	453	三玄院茶（篁庵）	454	三玄院鐘楼	455
	三玄院表門	456				



【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等 ※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

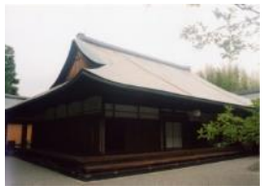
※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15･16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

国指定史跡及び特別名勝	大仙院書院庭園	S22	大徳寺方丈庭園	S25
国指定史跡及び名勝	眞珠庵庭園	S23		
国指定名勝	聚光院庭園	M9	大仙院庭園	M10
	大徳寺境内	M84		

大徳寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(2)

［国宝］

唐門


大仙院本堂

龍光院書院

［国指定重要文化財］

勅使門

仏殿

法堂

山門

聚光院茶室

聚光院本堂

玉林院南明庵

玉林院蓑庵

浴室

経蔵

方丈及び玄関

廊下

玉林院霞床席

玉林院本堂

龍源院本堂

龍源院表門

寝堂

庫裏

侍真寮

鐘楼

興臨院本堂

興臨院表門

瑞峯院本堂

瑞峯院表門

眞珠庵通仙院

眞珠庵本堂

眞珠庵庫裏

大仙院書院

黄梅院庫裏

龍光院黒田家霊屋

龍光院禹門

龍光院寮及び小庫裏

龍光院昭堂

龍光院盤桓廊

龍光院兜門

黄梅院本堂

（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

大徳寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(3)

［府指定文化財］

芳春院霊屋（芳春院）※

芳春院（瑞龍院）※

芳春院昭堂（呑湖閣）※

芳春院打月橋※

芳春院表門※

芳春院墓参門※

徳禅寺客殿※

三玄院本堂※

三玄院庫裏※

三玄院茶室（篁庵） ※

三玄院鐘楼※

三玄院表門※

［国指定史跡及び特別名勝］

大仙院書院庭園※

大徳寺方丈庭園※

【国指定史跡及び名勝］

眞珠庵庭園※

［国指定名勝］

聚光院庭園

大仙院庭園※

［天然記念物］

ツバキ(ワビスケ)：総見院
▲2

イブキ：大徳寺
▲3

■ 孤篷庵（こほうあん）

［国指定重要文化財（本堂（方丈）、書院、忘筌）、国指定史跡（庭園）］

大徳寺の塔頭で境内西端にある。慶長17年（1612）小堀遠江守政一（遠州）が龍光院内に一小庵を創建したのに始まり、当地には寛永20年（1643）に移転したと伝える。開山は江月宗玩（都林泉名勝図会）。寛政5年（1793）火災により焼失したが、松江藩主松平治郷（不昧）が再建、今日に至っている。本堂・書院は国指定重要文化財。茶室忘筌（ぼうせん）は四間三間、一重・切妻造・桟瓦葺の建物で、国指定重要文化財。
庭園は遠州の造った庭園を、寛政年間（1789-1801）に復興修理したもので、国の史跡名勝に指定。[18]

［重要文化財］

本堂（方丈） ※

書院※

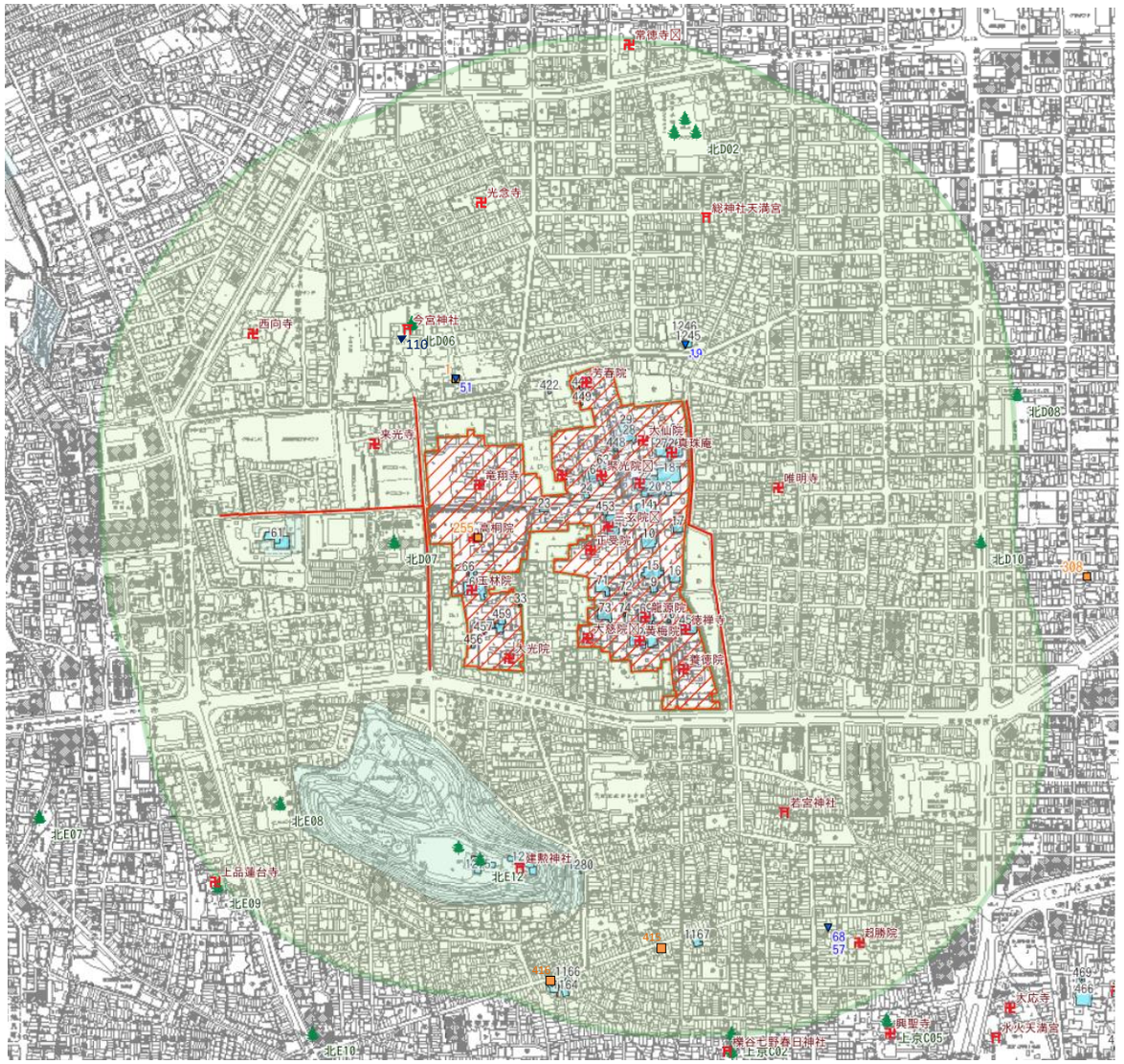
忘筌※

［国指定史跡及び名勝］

庭園※

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

大徳寺周辺の歴史的資産(1)



【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等 ※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

■ 建勲神社

北区紫野北船岡町の船岡山山上にある神社。正しくは「たけいさおじんじゃ」。織田信長・信忠父子を祀る。明治2年建織田社の神号宣下があり、翌3年出羽天童藩主織田信敏の東京邸内と山形県天童城址に創祀。同8年船岡山東麓（豊臣秀吉が信長の菩提を弔うために計画した天正寺の寺地）に社地を賜り、同13年東京より遷座。同14年忠を合祀し、43年新社殿を造営して山上に移転。例祭は7月1日。10月19日の船岡際には、鎧武者に扮した少年の行列がある。[19]

［国登録文化財］

本堂※
国登録

拝殿※
国登録

祝詞舎※
国登録

渡廊※
国登録

透塀※
国登録

神饌所※
国登録

祭器庫※
国登録

手水舎※
国登録

貴賓館※
国登録

社務所※
国登録

大鳥居
国登録

シラカシ 北E12 ［区民の誇りの木］

織田信長を奉る建勲（たけいさお）神社は、明治１３年に東京から遷座し、山上に新社殿がつくられました。参道を覆うシラカシは、山上に向かう人々の気持ちを引き締めています。

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

大徳寺周辺の歴史的資産(2)

■ 今宮神社

［景観重要建造物、国登録文化財］

▼110

船岡山の北、大徳寺北西に鎮座。祭神大己貴命・事代主命。
やすらい祭りは朝廷から勅使が立ち、疫の神を鎮めようとするもので、現在今宮神社の末社として祀られ、今宮社創建以前よりの社という伝承をもつ疫神社と関係深い祭礼として行われていたらしい。中世後期の今宮社やその祭礼については不詳であるが、近世初期には紫野・上賀茂・西賀茂一帯の総鎮守的性格をもつ社として記される。江戸時代のやすらい祭は、それらの村々から疫神社に奉納された。
現在境内には大将軍社・八社・地主社・宗像社・月読社・日吉社・稲荷社のほか、氏子の西陣機業家が祀った織姫神社や賀茂斎院にちなむ若宮社があり、国指定重要文化財の線彫四面仏石（天治2年7月13日の銘あり、京都国立博物館寄託）を蔵する。[20]

（指定理由）
船岡山の北方に位置し、平安京におこる疫病を鎮めるため営まれた紫野御霊会を創祀の発端とする。京の三奇祭の一つとされるやすらい祭、御霊会を起源とする今宮祭など、由緒と伝統を継承するとともに、地場産業である西陣織に関わる現代的な祭礼も営まれるなど、地域に深く根ざし、住民に広く親しまれている。
足利及び徳川将軍家との関わりが深く、本社本殿等の主要な建造物は明治期に焼失したが、幾つかの摂社が元禄造営の歴史を伝える。焼失後に再建された建造物は、伝統的な様式を保持しつつも近代的で優美な意匠を持ち、落ち着きある境内景観を形成している。また、楼門や参道に建つ大鳥居は紫野を象徴する歴史的な景観として定着している。

トウカエデ 北D05

［区民の誇りの木］

疫病退散の神をまつる今宮神社の神輿庫前に静かに立っています。

ムクロジ ▲27/ 北D06

［保存樹/区民の誇りの木］

神社の正面右手の道路に面した場所にあり、よく目立ちます。

■ 今宮神社御旅所

毎年5月5日より13日までの例祭の今宮祭（渡御祭または神幸祭ともいう）に本社の神輿を当所に安置し、「御駐輦」と称する。また5日「おいで」と称して神輿を迎え、神輿は氏子の各町を周り、13日は「おかえり」と称して本社にかえる。
現在の建物は寛政7年（1795）の再建。江戸時代初期に作られた神輿三基が昭和51年5月より三ヵ年をかけて解体修理された。[21]

■ 船岡山

［国指定史跡］

国指定※

北区の市街地に南部にある丘陵。標高約112メートル。山名は山形が船を伏せた形に似ていることに由来する。平安京正中線の北延長上に位置し、平安京の玄武に擬され、造営の基準点にされたともいう。平安期には景勝・遊行の地となり、「枕草子」にも岡の一番にあげる。のち葬送地となり、「平家物語」や「徒然草」にも記される。さらに戦略的要衝として戦場となり、応仁の乱（1467-77）では西軍山名氏が城砦を築いた。山上には明治13年織田信長を祀る建勲神社が創建され、公園となり、国の史跡に指定。[23]

■ 樹木等

ソメイヨシノ ：待鳳小学校 北D01

［区民の誇りの木］

大正７年に市立小学校となったことを記念して、地元の皆さんからの寄付で植樹されました。

ヒマラヤスギ： 待鳳小学校 北D02

［区民の誇りの木］

校舎の改築時に移植され、その後も大切に守り育てられています。

フジ： 待鳳小学校 北D03

［区民の誇りの木］

大正元年に現在地に移転した際に、当時の校門の近くに記念植樹されました。

クロマツ： 楽只小学校 北E08

［区民の誇りの木］

グラウンドの東の植え込みの中にあり、よく整えられた姿が特徴です。

クスノキ： 紫野高校 北E07

［区民の誇りの木］

紫野高校は昭和２７年に創立されました。このクスノキはそれ以前からこの場所にあったもので、背が高く仕立てられています。校舎の高さをしのぐほどに成長し、卒業生をはじめ多くの皆さんに親しまれています。

ケヤキ： 堀川通（御園橋・北大路） 北D10

［区民の誇りの木］

北大路通以北の堀川通中央分離帯には、ケヤキが植樹されています。ケヤキはほうき状に枝を伸ばし、夏には歩道に植樹されたトウカエデとともに緑陰をつくり、快適な涼しさを演出しています。

スダジイ： 船岡山公園 北E11

［区民の誇りの木］

船岡山の山中に育つ大木で、大きな枝を伸ばしています。

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

大徳寺周辺のその他の歴史的資産

■ 景観上重要な建築物・庭園　等

荒木家住宅（旧林家住宅）

［景観重要建造物、国登録文化財（主屋、土蔵）］

▼19

（指定理由）
　主屋は、旧紫竹村における農家住宅の特徴を平面構成によく留めると同時に、市中の町家と共通する構造形式を有するという意味で、農家と町家の特徴を併せ持つ遺構として注目され、貴重である。

創庵

［景観重要建造物・歴史的風致形成建造物］

▼68　▼57

（指定理由）
　当該建造物の周囲には同時期に建築されたと思われる伝統的町家が点在して残っているが、改変されたものも多く、また数も急速に減少しつつある。その中にあって当該建造物は外観意匠を現在も良好に保持し、通り景観の形成に重要なものである。
　かつて西陣織の生産拠点として織職や店舗が軒を連ねた地域に位置し、昭和初期に織問屋の店舗兼住宅として建てられたもので西陣の伝統を歴史的意匠とともに、現代に継承する重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都の歴史的風致を形成している。

一文字屋和輔

［景観重要建造物/京都を彩る建物や庭園］

▼51　■1

（指定理由）
　門前の茶店としての外観意匠の特徴を色濃く残しており、今宮神社東門へと続く参詣道の通り景観の形成に重要な建造物である。長保２年（1000）創業の今宮神社の門前であぶり餅を売る茶店。建物は、古いもので約400年前と伝えられている。敷地の北西角に庭がある。

通りに面して東から、東棟、中店、西棟が建ち並び、中店の奥に中棟が建つ。道路に面して１階は開店時に解放される板戸が並び、中棟・西棟２階には手すり付き開口の並ぶ様子が、門前の茶屋としての外観を形成している。今宮神社東門へと続く参詣道の通り景観の形成に重要な建造物である。

旧藤ノ森湯

［国登録文化財、京都を彩る建物や庭園］

※国登録　■415

　船岡温泉の経営者 大野松之助は昭和5年(1930)に銭湯として開業。外観正面の腰壁や浴室にマジョリカ風タイルが使われているのが特徴。平成11 年(1999)、銭湯は廃業したが、現在はカフェとして活用されている。

船岡温泉

［国登録文化財、京都を彩る建物や庭園］

※国登録　■416

　地元だけでなく観光客にも人気の銭湯。大正12 年(1923)に開業し、開業当初は、料理旅館船岡楼と、その附属施設として、船岡温泉、理髪店が建てられた。

■文化財（建築物）、史跡・名勝　等

船岡温泉　旧船岡楼※
国登録

船岡温泉　旧理髪店※
国登録

船岡温泉　脱衣場※
国登録

船岡温泉　浴場※
国登録

■ 上品蓮台寺

［国登録文化財］

※

　船岡山の西、蓮台野にある。真言宗智山派、蓮華金宝山と号し、本尊は延命地蔵。洛陽地蔵四十八願の第十番。九品三昧院・十二坊とも称されかつては香隆寺とも称した。
　当寺は応仁の戦火で焼失したが、文禄年中（1592-96）豊臣秀吉の帰依を得、さらに根来山性盛が再興して寺領110石余の寺となり（京羽二重）、境内に子院12ヵ所もでき、京都五三昧の一つとして栄えた。その後子院もさらに増え、総門（千本通鞍馬口）の東側から北へ地蔵院（橋の坊）・大慈院（芝の坊）・安楽院（白蔵坊）・普門院（石蔵坊）、北野はずれに仏眼院（南の坊）、西側では照明院（手向房）・宝泉院（藤の坊・池の坊・上の坊）・福勝院（中島坊）・玉蔵院（花の坊）・蓮台寺（本坊）・真言院（真言坊）、さらに外総門の南に玉泉院（田中坊・工の坊）・願明院（願明坊）があったが、多くは統廃合され、現在は真言院・大慈院が存する。[22)]

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

景観の特性と形成方針 （京都市景観計画　抜粋・要約）

紫野風致地区

【概況】

当地区は、大徳寺、今宮神社及び船岡山から構成され、船岡山の樹林とともに、大徳寺及び今宮神社の境内地、紫野高校には豊かな緑が保全されている。

【良好な景観の形成に関する方針】

●大徳寺及び今宮神社の門前景観の風情

大徳寺及び今宮神社の境内地の濃い緑の保全とともに、大徳寺道の伝統的町家の家並み、今宮神社の東側門前で向かい合う名物のあぶり餅屋や南側門前の大徳寺等の豊かな緑が織りなす門前の景観に配慮する。

●船岡山は敷地内緑化等樹木の保全

船岡山については、樹木の保全に重点を置くとともに、周辺の住宅地の美しい自然石積擁壁や敷地内緑化等の自然的要素を保全する。

大徳寺周辺特別修景地域

大徳寺周辺では、大徳寺境内の緑と伝統的町家とが一体となった門前の景観を保全するため、建築物は、軒の連なりに配慮した和風外観を基調とする。

●今宮神社門前における和風外観

今宮神社門前については、東の門前の名物餅屋一帯の景観を保全し、それより東の地区については生垣や樹木による修景や建物の和風基調による修景を行う。また、南門正面の参道では、和風外観による修景を行う。

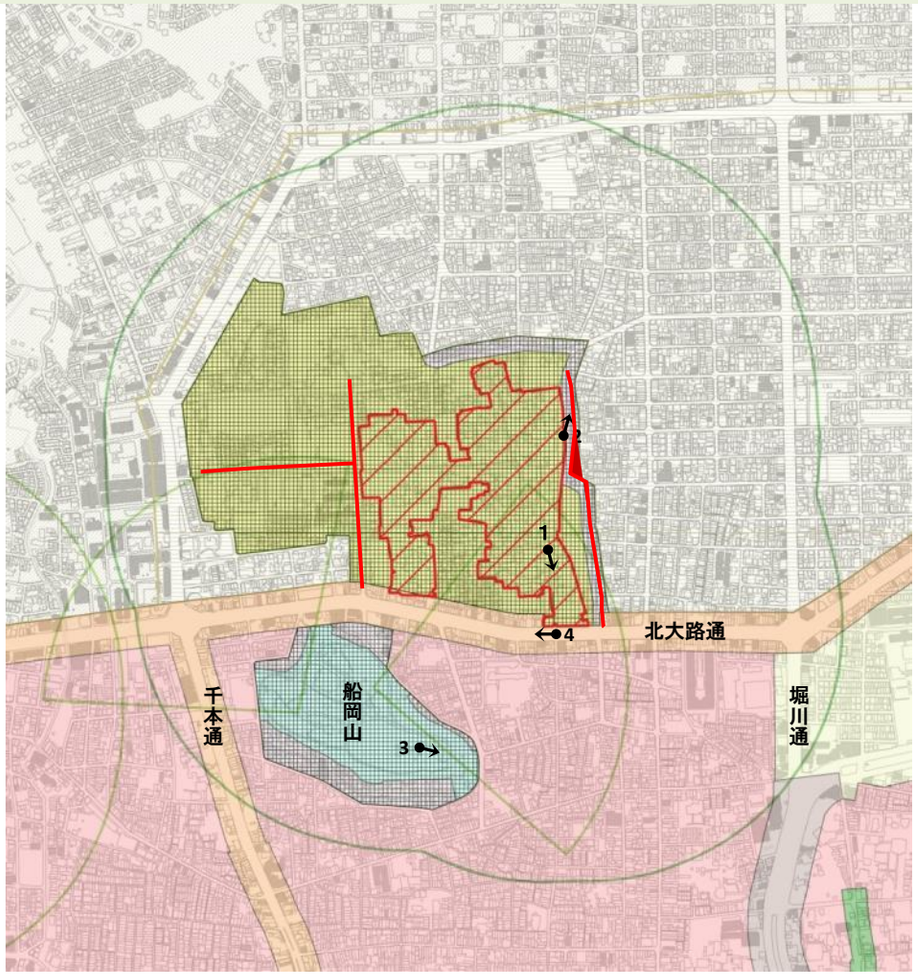
船岡山周辺特別修景地域

船岡山及びその南側の住宅地では、船岡山の緑豊かな景観との調和を図るため、十分な敷地内緑化を図る。擁壁等を設ける場合は、自然景観に配慮した素材を使用する。

1）　大徳寺境内

2）　大徳寺道

3）　建勲神社



沿道型美観形成地区（西大路・北大路通）

西大路・北大路通地域は、北大路通から円町までの西大路通とその沿道及び大徳寺前から西大路通までの北大路通とその沿道から構成される。西大路通及び北大路通は、昭和初期に中心市街地を囲む環状道路として計画された幹線道路である。特に、北大路通の沿道には、大徳寺や船岡山等の観光名所があり、西行すると左大文字を眺望することができる。北大路通から連続する西大路通の北部の沿道には金閣寺や平野神社等の観光名所があり、北行すると左大文字山が正面に眺望できる。

このため、建築物は、外壁の位置を道路から後退し、夜間照明を工夫することにより賑わいのある歩行者空間の充実を図るとともに、左大文字山の眺望を阻害することがないように、建築物の色彩や屋上景観等の整備に努め、良好な眺望や通りの景観の形成を図る。

また、北大路通沿道の大徳寺及び西大路通沿道の平野神社の土塀や樹木等が、特徴的な通り景観を形成している。このため、大徳寺や平野神社などの社寺周辺においては、それらの土塀や樹木等と調和の取れた形態意匠とすることにより、歴史的景観の保全を図る。

4）　北大路通

【凡例】

眺望景観保全区域
- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区
- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

建造物修景地区
- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他
- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

景観地区
- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区　一般地区
- 歴史遺産型美観地区　歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区　界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

※　詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1)　京都市　編. 史料 京都の歴史. 第６巻　北区. 平凡社. 1993. p.515
2)　佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.807
3)　京都市　編. 史料 京都の歴史. 第６巻　北区. 平凡社. 1993. p.520
4)　同上、 p.515
5)　平凡社. 寺院神社大事典. 1　京都・山城. 平凡社. 1997. p.80
6)　京都市　編. 史料 京都の歴史. 第６巻　北区. 平凡社. 1993. p.520
7)　平凡社. 寺院神社大事典. 1　京都・山城. 平凡社. 1997. p.367
8)　千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.64
9)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第７巻　上京区. 平凡社. 1980. p.57
10)　京都市　編. 史料 京都の歴史. 第６巻　北区. 平凡社. 1993. p.515
11)　同上、 p.515
12)　同上、 p.520
13)　平凡社. 寺院神社大事典. 1　京都・山城. 平凡社. 1997. p.367
14)　千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.64
15)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第７巻　上京区. 平凡社. 1980. p.57
16)　京都市　編. 史料 京都の歴史. 第６巻　北区. 平凡社. 1993. p.520
17)　平凡社. 寺院神社大事典. 1　京都・山城. 平凡社. 1997. p.450-p.453
18)　同上、 p.457
19)　佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.356
20)　平凡社. 寺院神社大事典. 1　京都・山城. 平凡社. 1997. p.78-p.80
21)　同上、 p.80
22)　同上、 p.366
23)　佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.807